

特別支援学校中学部生徒が 集団の中で安定して活動に 参加できるための指導

得意さを活かして他害行動を減らす

生徒の実態

- 中学部生徒 自閉症
- 視覚優位。個別スケジュールの活用は定着している。
- 教員との個別課題は比較的安定して取り組む。
- 人との会話が好き。簡単な日常会話は成立。
「なんで？」「教えて」などの質問が多い。
- 集団活動場面では他害・多弁・嘔吐などの行動が多い。
- 友だちや教員を叩く・蹴る・つねる・髪の毛をひっぱるなどの他害がある。
- 家庭ではほぼ毎日、兄弟とのケンカがある。
- 外部サービス先でも同様の行動が続いている。

保護者の願い

- ・ 落ち着いて学校生活を送ってほしい

教員の願い

好ましい集団参加をしてほしい

- ・ 他害をなくして活動に参加してほしい
- ・ 多弁，嘔吐を減らして自立的な行動をしてほしい

アドバイザーからの助言

- 他害などの問題行動をコミュニケーションと捉え、視覚的に配慮された方法で個別的に好ましいかかわり方を徹底して教える
- 記録（特にきっかけの部分）を分析して、授業参加しやすい工夫をする
- 罰のコントロールばかりでなく、ポジティブなルール（トークンシステム）を設定する
- 集団活動場面における「授業参加」を増やし、学びのある授業を行う
- 対応を学部で統一する

助言を受けての見直し

【助言前】

- 教員が付き添い、視線を遮ったり会話によって気になる音などを遮断したりする
- 視覚的な活動スケジュール
- 適度に会話しながら課題遂行
- 集団活動には距離をとって部分参加
- 他害があった場合、善悪を伝えるが端的に注意するにとどめる
- 移動や課題の遂行中はすぐに活動に復帰させる
- クラスでの日常生活の指導の時間には教員を増員する

助言を受けての見直し

【助言後】 ＊助言前の取り組みは継続

- ・好きな担任が自分から離れる体験を通して、行動と善悪の因果関係を説明した
- ・日常生活の指導の時間に担任がソーシャルストーリーズTMやイラスト，リハーサルで適切なかかわりを教えた
- ・他害があった場合の対応（好きな教員とかかわることができない）を学部間で共有した
- ・トークンを導入した
- ・記録を続け，環境との相互作用として分析し，授業改善を進めた

指導の手続き

〈ベースライン〉

- 主に担任が付き添い音や動きなどの刺激を遮断する
- 視覚的な活動スケジュールを活用する
- 適度な会話をしながら課題を遂行する
- 集団活動は友だちと距離をとり、教員と会話をしながら部分的に参加する
- 会話は本人が好む口調やキーワードを活用する
- 本人の動線を大きくとる
- 他害があった場合には善悪を端的に説明する
すぐ目の前の課題に復帰させる

指導の手続き

〈介入1〉

- ・朝の日常生活の指導の時間に適切なかかわりをソーシャルストーリーズTMやイラスト等で説明する
- ・他害があった場合には好子である担任がタイムアウト（1～3分）する。教科担任の授業中に起きた場合は担任が教室に入る時間を5分遅らせる

〈介入2〉 ＊介入1に追加

- ・トークンを導入（①→②の順）
- ① 1日他害がなかったら中学部チャレンジ日記（ふり返しノート）に「仲良しシール」を貼る
- ② 午前中に他害なくいい行動が続いたら担任と隣で給食を食べる

記録方法と記録

【記録方法①】

他害（×の行動）を担任や教科担任が記録用紙に記録し、担任がグラフ化する

【記録】 助言前：ベースライン

助言後：介入1，介入2

回数・・・1日に起こった他害の回数

(叩く，蹴る，つねる，ひっかく，
髪の毛をひっぱる)

記録方法と記録

【記録方法②】

好ましい行動（○の行動）を担当が記録、グラフ化する

【記録】 助言前：ベースライン

助言後：介入1, 介入2

回数・・・日常生活の指導場面に起こった好ましい行動の回数

(肩をトントンとたたく, 相手の名前を呼ぶ, 手でタッチする, 自分から挨拶する)

記録方法と記録

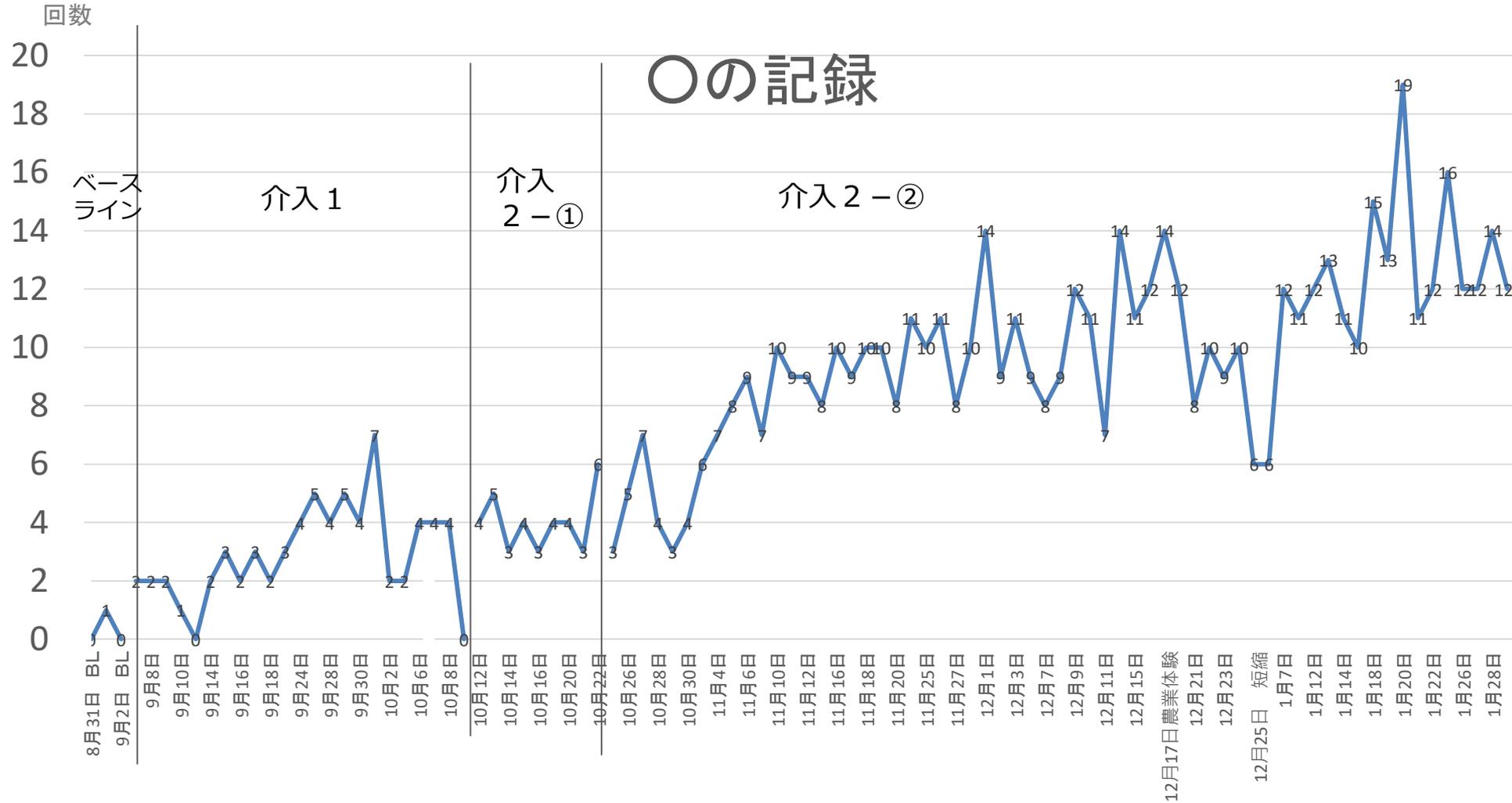
記録方法① ×の記録

日時・授業名	きっかけ	行動	結果と対応・その後の変化等	備考
8/31 (月) 3校時 体育	体育館で運動会ダンスの説明を中学部全員で聞くため順に並ぶのを待っていた*体育館	担当教員Hの足を軽く蹴った	順番に並ぶことを伝えて促す→並んだ	・雑然とした雰囲気 ・登校直後に少しおう吐あり体調不良
8/31 (月) 3校時 体育	中学部全員でダンスの練習でT1が説明中	担当教員Hの足を軽く蹴った	距離をとっていたため当たらず。担当教員Hが前で示範しダンスを促す。「気持ち悪い」とつばを床に吐いた	・口を拭くように促しトイレへ誘導→大便秘したい訴えあり排便を済ます。排便後はダンスに取り組めた
8/31 (月) 4校時 自立活動	ゴム鉄砲を次の友だち(M)に手渡すため正面に立った	着席している友だち(M)の頭を平手で1回叩いた	着席させて「U先生(担任)はいなくなります」と伝えて教室を1分間退室。帰ってきたら「もうしません」と言った。	・手渡そうとして友だちからすぐに反応がなかった。・教員が動線や視線を遮るなどの配慮がなかった。
9/1 (火) 4校時 国語	モニターを指さして答える課題で、友だちの手をとって指さしを一緒にしようとして	正面から友だち(S)の頭を頭を叩こうとした(教員が制止した)	「叩こうとしたから担任U先生(担任)はいなくなります」と伝えて1分間退室した。戻ると「いやです」と言った。	・1回目と一緒にやって成功し、2回目だった
9/2 (水) 2校時 特別活動	集団ゲームの途中	クラスの友だち(N)と順番を交わる時に、腕をなでた	×のことにしたことを伝えるとすぐに「ごめんなさい」と言った	・直前に近くの友だちに手を出そうとしていたが、「一緒に勉強できなくなる。U先生来ててくださいな」と伝えることで我慢している様子だった
9/3 (木) 2校時 自立活動 始業直前	入り口付近の椅子に座って待っているとき目を友だち(K)が通った	友だち(K)の腕を軽くつかんだ	「やめとき」と制止。「U先生(担任)はいなくなるよ」伝え1分間退室。→登校直後から体調不良あったため別室で学習	下校方法が外部サービスであることがわかった直後から。「腹痛い、気持ち悪い」とおう吐(少し)あったり、床に運動靴が落ちた
9/7 (月) 3校時 体育	中学部全体でダンスの説明中*体育館	担当教員Hの足を蹴った	ダンスの次の行動をとるよう促した→行動をとった	・別の男性教員Hを指さすなど近くにいてほしそうだった

記録方法② ○の記録

日時・授業名	きっかけ	行動	結果と対応・その後の変化等	備考
9/15 (火) 給食	クラスメイトNさんと返却口で片づけがパツティングした	近寄って肩をトントンとしてタッチした	Nさんはタッチしてくれた U先生「おー、すごいやん。あゆさんはやさしくしてくれたな」→すぐに片づけを始めた	
9/15 (火) 給食	自分の片づけが終わったところクラスメイトNさんも教室に戻ろうとしていた	Nさんに近寄って「コップもっていくわ」とNさんのコップを手にして持っていった	U先生「NYくんやさしいな。ありがとう。」→嬉しそうに顔で教室へ戻った	
9/16 (水) 朝の体育(歩行)	玄関前に集合しているときクラスメイトのNさんが目前にいた	左腕をトントンとタッチした	U先生「そうそう、そうとタッチ。いいね」	
9/16 (水) 朝の体育(歩行)	歩き出そうとしていたらクラスメイトのNさんが周回ボードを渡してくれた	U先生「NYくん、Nさんがボードくれたよ。」と言ったら「ありがとう」と受け取った	U先生「やったな、うれしいなあ」→嬉しそうに歩行を始めた	
9/17 (木) 自立活動	着席しているときKくんが目を通ろうとした	じっとみていて手を出してタッチを要求した	Kくんがタッチしてくれた →T2「おーすごい。よかったな」→すぐに授業参加	

指導の成果



8月31日 ~9月2日 ベースライン
 9月7日 ~10月9日 介入 1
 10月12日~10月23日 介入 2-①
 10月26日~1月29日 介入2-②

指導の成果

- 他害の絶対数が減り，好ましい行動が増えた
- かかわりのきっかけを知り，自分から好ましいかかわりができるようになった
- 中学部の他の友だちや他学部の子ども，教員など新しい相手とのかかわりが増えた
- 語彙，会話のバリエーションが増えた
- 嘔吐の絶対数が減った
- 外部サービス先でも好ましい行動が増えた
- 問題行動の機能が明確になり，支援体制の整備に役立てられた

ここが成功のポイント

- 本人の得意さ（人への関心，お話好き，視覚優位性）を活かすことができた
- 他害の代替え行動として「適切なかかわり」を身につけることができた
- 記録を丁寧に取ることで，行動の機能を分析して支援体制を整えることができた
- 情報共有したことでキーパーソンから学部教員，関係の支援者へと統一した支援が展開できた